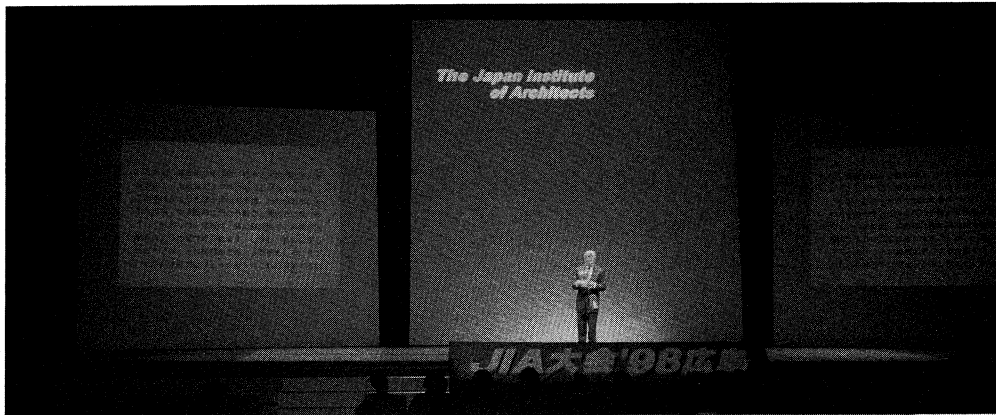


JIA 長野県クラブ 33

社団法人 日本建築家協会

1998. 11. 1

JIA大会'98広島



▲ 村尾会長あいさつ
▶ 展示会・交流のひろば
◀ 全国地域会合同会議



21世紀に向けたまちづくりに思うこと

副会長 上村保弘

既成のまちを再整備しようとする動きは、まちの住民、行政マン、建築家などが三位一体となりながら試行されて久しいと言えます。法的整備も少しずつ進み、具体的な整備に不可欠な資金援助なども中心市街地活性化法のように本年度施行のものもあります。また、公共施設を民間につくらせ運営していくことを助長するPFI制度の推進が経団連より提言発表されたのは今年の9月22日のことでした。

このような動きの中で、実際のまちづくりが十分に成功を収めている例は決して多くはありません。外観としてのハードが優先してしまったり、商の比重が高すぎ生活環境が脅かされ住民不在の空洞化が進んでしまったりしているからです。本来まちづくりは「人が住み、育ち、学び、遊び、働き、交流する」という自分たちのまちに愛着を持つということからスタートしているはずなのです。どこかにまちの原風景を忘れてきてしまったために、どこかなじめないまったく新しい風景が出現して困惑した人も多いのではないのでしょうか。

まちが持っていた風景には、一つ一つ記憶をたぐり寄せてみると、かどの店屋とか、横町の隠居さんなどの思いでの中に確かに小川だとか虫の鳴く道端などの背景が

きちんと織り込まれていました。生活・社会・自然というそれぞれの環境が適度なバランスで混在していたと言えます。人間には、経済性だけではなく、精神性・文化性・叙情性などの非経済的価値を追い求めていくことで精神的均衡を保つという習性があります。市街地＝近代的＝看板のパッケージ建築物だけではその習性を満たすことは難しいと考えています。

21世紀を目前に控えた現在、限られた土地(まち)に、私たちが失いつつある風景を盛り込むことは、平面的な思考のままでは無理があります。高齢化社会、商空間活性化のための新規産業の創出、住民の呼び戻しなど様々な課題を解決していくためにも、広い視点での立体利用の必要性があります。その立体利用は、生活・社会・自然という環境バランスを考え、地球環境を見据えたエコロジカルな発想です。環境への負荷の少ない省・新エネルギー、リサイクルなどのシステムを考慮しつつ、まちが持っていた文化や伝統を継承・発展させる地域づくりが重要なのではないかと考えています。単に物理的な立体化ではなく、生態的・「まち」機能的なうおいのある立体利用としての「まちづくり」が望まれているのではないのでしょうか。



「JIA大会'98広島」 に参加して

出澤 潔
出澤潔建築設計事務所

「ひろしまで未来を視る」をテーマにJIA大会'98広島が10月23日、広島国際会議場で開催されました。

オープニングセレモニーに先立ち、今日的な10テーマを掲げたプロフェッショナルワークショップが開かれました。そのなかで「JIAの将来を見据えて—地域会を考える—」は、JIAの将来は地域会の積極的な活動に期待しなければならないとの立場から、その活動の基本となる建築家資格制度について鬼頭梓元会長から建築家資格制度実現のための経緯と現状について詳細なコメントを頂きました。また、建築士法改正と指定法人の問題点について河野進建築士法検討委員会委員長から、JIAが抱えている課題について佐々木群副会長からそれぞれお話を頂き私どもが考えなければならない事柄があらためて浮き彫りにされました。各地域会代表から積極的な意見が提示されましたが、短い時間の中では議論が収斂していくようなテーマではなく、もっともっと時間が欲しいと感じたことはとても残念なことでした。しかし、こうして集まって少しづつでも意見を出し合いお互いの理解を深めることが大切なことであると感じました。

村尾会長は「科学と技術をベースにした現代都市文明の急速な発展はさまざまな問題を社会に残した。私達はこれまでの都市・建築の近代化の流れを見つめ直し、今後の都市や建築のあり方やそれを実現する体制を見直す時点にいる。建築と環境と文化を創造し護り育てるために建築家の果たすべき役割や、行うべき事柄について語り合いたい」と本大会の意義を述べられました。

記念講演は「広島が発したもの」と題して藤森照信先生がいつものひょうひょうとした語り口でピースセンター・世界平和記念聖堂のコンペから完成までを建築史家としての豊富な資料をもとにして大変興味あるお話をして下さいました。平岡広島市長の「ひろしまからの未来」は、平和都市ひろしまの街と市民の未来、そしてその中での建築家の役割について静かな中にも強い意志のこもった感銘深いお話でした。壇上に駆け上がって話し始める若々しさとめりはりのある話し振りに私をすっぴりのめり込ませた池田武邦先生は「20世紀から未来へ」で建築を志すものが地球環境を大切に考えることが今どんなに大事なことなのかを熱っぽく語って下さいました。

私はこの大会に参加して、私達が社会に対してどう責任を持つことができるのかを明確にすることが今求められている、ことを教えられたと思っています。



コト・コト・ コットン

御子柴 進
㈱建築研究所フォーラム

最近、私はある仕事で、伊那谷に残された「水車小屋の復元」という難題に取り組まなければならなくなりました。それも、単なる外観だけの復元ではなく、機能の復元なのです。水車の車本体は既に無く、外壁もかなり傷んでいましたが、屋根をシートで保護してあったので内部機能はしっかりと残されていました。

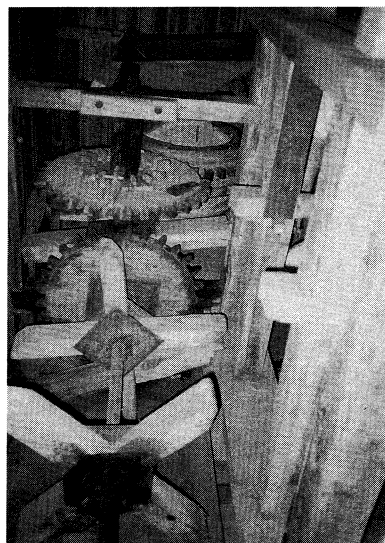
山陰の「水車小屋」に始めて足を運んだのは、初夏の頃でした。その中に残された「藁打ち」「糶摺り」「碓臼」といった機能を何とか再現できないのかという目的で、復元に手を貸して下さる愛好者や、造園関係の方々と一緒に調査をしながら、私は、ある種の感動におそわれました。

おそらく、大正か昭和の初期頃、名も無い水車大工（そんな呼び方があったかもわかりませんが）によって造られたであろうその水車小屋の内部は、かなり古びて、欠損はあるものの、妙に生き生きしているのです。「藁打ち棒」や「糶摺り棒」を跳上げたであろう「跳ね車」は単純ですが力強い美しさを放っていますし、「糶摺り壺」の何とも言えない円やかさは、それが石であることさえ忘れさせるものでした。最奥部にある「碓臼」機構は、木製の歯車の歯が欠け、軸木は磨り減っているのですが石臼は健在ですし、その下の「フルイ（篩）」機構や「取出し口」機構など、よくここまで考えたと思うほど知恵を感じさせるシロモノでした。

現在私達は、少々不況になったとはいえ、まだまだ大量の物資に囲まれ、便利なエネルギーや製品に頼って生活しています。それとは正反対の「物資は身の廻りにある材料に限られ、エネルギーも技術も自然と共存する形でしか考えられなかった時代」の水車小屋は、何か重いものを私達に突き付けているようでした。日本の民具だとか家具に目を凝らしてみると、水車と同じように、本当の意味で人間の知恵と文化を感じさせるものがあふれていることに驚きます。

それに比べ、現在私達（少なくとも私）がつくり続けているものは「知恵と文化」に値するものなのか？ はなはだ心配になります。

ともあれ、森の水車が仕事の歌を響かせて復活する日を夢見て、まだまだ多事多難です。





ドイツ旅行の 思い出

羽生田 八 郎
羽生田建築設計事務所

3年前に、カミさんと2人でドイツに行ってきました。息子がドイツ留学をして2年目の夏でした。成田から2人でフランクフルトまで行き、息子の待つハノーバーまでのことです。ルフトハンザが1時間遅れでフランクフルトについたために大変な事態になりました。ハノーバーまで行くには中央駅発最終列車なのです。遅れたことで頭がパニックになり、その上飛行場から中央駅までどうやって行っていいか分からないのです。スカイライナーを乗り継ぎ地下鉄で行くことが分かりやっと一安心と思いきや、上へ下へと天手古舞。この間カミさんはごきげんが一変し夫婦ゲンカです。やがて中央駅に着き、息子に送ってもらったメモを見て、19番線に走りこみました。しかし列車がありません。時計を見ると発車時刻を20分も過ぎていました。「どうしよう。これまでか!」それでも気を取り直し、カミさんに「オレはスゴインダ」を見せつけてやろうと思い、ホームにいたアベックに「ナッハ、ハノーバー?」と3回繰り返したらOKサインを出してくれました。カミさんは「お父さんスゴイネ」と安心した様子でアベックに近づきカメラを渡し、私のそばに来てポーズを取る始末です。よそいきの声で「ダンケ」。相手は笑っていました。

しばらくして、列車が入って来ました。「これが例のICEか?」。したり顔でいよいよ乗車。車内の広さにビックリ。コート掛まであるのに又ビックリ。さすが一等車。おまけに品のよい女性が一人。変な日本人が来たと思ったのか私を見つめて微笑んでくれました。隣の列車に行くと又ビックリ。列車の中に部屋がある。片廊下の6人個室です。そこに2人で入り込みましたが広すぎて日本人向きで無いことがすぐに分かりました。シートが大きすぎて向いのシートに足をのばしても届きません。ドイツに来たと実感しながら妙に感心していると、車掌が来て切符拝見です(この時、気がついたのですが、改札はなく車内チェックのみ。これは便利です)。ビールを注文し、日本から持ってきたおつまみで一杯飲みました。この時のビールの味はドイツ10日間の旅で一番でした。

リッチな気分も2時間程で終り。ハノーバーに着いたのです。息子に会えるか心配になり酔いも覚めました。遠くから聞いたことのある甲高い声で「お父さーん」。お袋に似た体形が走って来ました。思わず男同士で抱き合い映画のシーンを演出してしまいました。テレはありませんでした。不思議なものです。

そして、3人の“珍道中”が始まりました。



建築家に 望むこと

渡 辺 一 成
榑角藤長野支店

建築情報が氾濫し、TV、建築雑誌、週刊誌、婦人雑誌にも建築に関する特集が生まれ、一般の人たちもそれなりに建築に関心を持つ時代となりました。

しかし、ただ単に設計するのではなく、建築デザインを含めた環境など、ソフト、ハード両面を含む総合的な視点に立ち物を創るのが設計者の立場・役割であり、その重要性が益々高まってきていると思うのであります。アーキテックエンジニアは、アートにも通じていると思います。アートを具現化して建築に置き換える。そこには、建築家としての独自の思想があるべきであり、主張が入っても受け入れられるのではないのでしょうか。

VE流行の昨今、思想、主張をVEの名のもと安易に妥協して良いものなのでしょうか。コストも大変重要なファクターであります。そこには自ずと限界があります。

「Rome Was Not Built In a Day」。主張を納得させる弛まぬ努力こそ、明日への展望へ繋がっていくと信じています。金融不安、業界不況の中、皆様の更なる活躍と景気の早期回復を願ってやみません。



美しい建物に ついて

小野澤 秀 世
中信電気榑長野支店

このところ、連日報道されている日本長期信用銀行再建問題は景気動向との関連もあり我々も大いに関心のあるところですが、そんな報道の中で目にとまったのが「長銀ビル」です。多くの方も見ておられると思いますが、20数階建の立派なビルの1~5階分ぐらいが大きく欠けた形になっているのです。何の為にそうなっているのか知りませんが、見るからに不安定で奇妙な形です。素人なりに見ても構造的に相当無理と無駄がありそうだし、さりとして造形美から見てもそれだけの価値があるのか甚だ疑問を感じます。又、この他の建物でも外観から異様な感じを受ける物に出くわすことがあります。世の中の価値観や評価は多種多様ですが、多くの人々の価値観は、自然と良いものに行き着くと思います。

建物ではありませんが、横浜のベイブリッジに代表されている斜張橋の美しさはほとんどの人に感銘を与えています。橋は装飾ではなく機能(構造)からくる美しさであり、これは素晴らしいものだと思います。

このような具合で外野は勝手気ままに言っておりますが、それを創造される建築家の皆様のご苦勞を思い遣るところです。益々頑張ってくださいと思います。

クラブインサイド

第1回交流委員会 高橋重徳

8月27日長野にて開催。本年度事業の進め方について検討。①コミュニケーションファイルの改訂及び充実の仕方②技術交流会の内容及び実施方法③建築業界の現状と今後の見通しなどについて活発な情報や意見交換を行い交流を深めた。

第2回会員委員会及び (仮称)建築家カタログ作成部会 松下重雄

9月8日、サンルート松本にて会員委員会開催。議題は「あすなる巡回展」にしばり協議。各地域毎に会場の確保状況を報告し合ったが、10～11月は事実上困難な状況となる。少し時間をかけてでも会場費が安く、一般市民が寄り付き易い会場を探し、3月中には開催できるよう更に努力するよう確認し合う。

「あすなる見学会」は11月開催。全会員に後日案内する。

10月13日、松本あがたの森文化会館にて、(仮称)建築家カタログ作成の「編集者」候補3社を招き、1社に決定するための説明会を開催。10月27日にはその発表会を予定している。また、「参加登録料」の振込みが始まり、いよいよ発刊に向かって動きだした。

第5回幹事会 土屋長命

9月8日にサンルート松本で開催。支部選挙管理委員に須田考雄氏、支部次期幹事に関邦則氏の推薦を決定。委員会運営規則の一部改正案を協議決定した。

あすなる巡回展は県内4地区にて開催予定。賛助会員にもカタログ提供などで参加してもらい、非会員の参加も受け付けて盛り上げたい。その他の事業計画についても意見を交わした。

第1回事業委員会 片倉隆幸

10月14日、サンルート松本で開催。第7回文化講演会について活発な討論が行われた。次回委員会にはタイムリーなテーマと講師の決定をすることにした。

クラブアウトサイド

第4回支部役員会 関邦則

9月2日(水)、建築家会館にて開催。JIA大会'99鎌倉の準備などの検討。指定法人の関連で建築家資格制度について意見交換。終了後アーキテックガーデン実行委員会開催。来年は一般客が集まりやすい会場に変更。

第11回地域組織整備委員会 出澤潔

9月29日(火)開催。第2回全国地域会合同会議の運営、地域事業助成費第1次申請、自治体総合フェア等について協議。建築家資格制度について地域会としてどう考えるかについて熱心な議論があった。自治体総合フェ

アには関副会長が関わった善光寺門前大門町上地区の出展依頼があった。

第7回保存問題委員会 依田政司

10月2日開催。保存問題委員会は毎月第1金曜日に定例会を行っています。現在旧吉田五十八邸・日本工業倶楽部をはじめ9件の事例について検討しています。拡大保存問題委員会に向けて支部としての見解統一のために「理論合宿」を11月に軽井沢で行う予定になっています。

第1回選挙管理委員会 須田考雄

10月13日開催。委員長に吉武創作(神奈川)氏選出。11月15日発行Bulletinに告示。立候補届出締切り12月14日必着。12月17日、第2回選挙管理委員会定数一杯の場合確定。定員に満たない場合、1月15日発行Bulletinに第2回告示。2月8日投票締切り。2月12日第3回選挙管理委員会及び開票。選挙結果は3月15日発行Bulletinに公表。なお、当クラブ任期満了改選役員は関邦則氏。留任役員は高橋重徳氏。

第1回支部常任幹事会 関邦則

10月14日(水)、建築家会館にて開催。主たる協議は支部役員定数削減についてであったが、削減の必要性や各種会議の性格付けなどに対する意見も出て、まだまだ議論継続中。建築家資格制度についてはUIA建築家実務推奨基準に関する協定も含めて検討集会を開催予定。

第6回文部総務委員会 高橋重徳

10月20日開催。アンケート集計結果を踏まえた「役員定数削減(案)」を常任幹事会に提出した。東京の地域会開設に向けて「東京地域会設立準備委員会」を発足し、問題点などの具体的調査検討を行うことになる。前半期の会費収入が厳しい状況であり、未納者に対する対応を検討する必要があるなどの報告があった。

第2回全国地域会合同会議 出澤潔

10月23日、「JIAの将来を見据えて—地域会を考える—」をテーマに広島大会のプロフェッショナルワークショップとして開催。地域会の活動のあり方と建築家資格制度について意見交換が行われた。内容が多岐にわたるため、前回同様時間切れの感で次回への期待を持たせたまま閉会となった。



JIA長野県クラブ

編集人 関邦則
発行人 出澤 潔
発行所 JIA長野県クラブ
長野市大字南長野字
宮東426-1
長野県建築士会館内
TEL 026 (232) 3897
FAX 026 (232) 5303
作成 新建新聞社

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。